

(資料2)

鈴木家住宅主屋（すずきけじゅうたくしゅおく）

員数：1件

所在地：名古屋市昭和区五軒家町20-2他

所有者：個人

1 登録理由

鈴木家住宅主屋

洗練されたつくりの洋間付近代和風建築で、戦前の名古屋における郊外型住宅地の様相を示している上質な住宅。

(登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの)

2 概要

主屋

木造平屋一部2階建、瓦葺、建築面積255㎡、建設年代 昭和前期／昭和28年頃改修

鈴木家住宅は、名古屋市内を流れる山崎川の東岸、八事丘陵の住宅地に位置する。

木造平屋建の座敷棟とこれに接する二階建棟と玄関棟から成り立ち、桧皮葺の洒落た門構えを持つ。座敷棟は東西に伸びる長い中廊下を軸とし、その南側に居間、広縁のある座敷、奥座敷の3室を配置し、北側に衣裳部屋と寝室の2室、洗面所と浴室、東側に家事室、台所兼食堂と続いている。二階建棟は、一階を洋室とし、石畳にガスヒーターを置いた体裁の暖炉を設けていた。天井を高くするなど垂直軸を強調した洋間の雰囲気を持つが、窓には手摺の痕跡があり、内側に紙障子を設けるといった和風の意匠としていいる。二階部分は神楽つくり¹の独立した和室である。

大隅鉄工所社長の大隅孝一が所有していた昭和27～28年（1952～53）に玄関棟と、座敷棟の北側に茶室と子供部屋からなる付属棟を増築した。

鈴木家住宅は、昭和前期の建物で、その基本形態は当時流行した中廊下形式を設けた平面形に特徴があり、昭和27～28年（1952～53）にわたる増改築を経ながらも往時の住生活を偲ばせる近代和風建築³である。

1 神楽つくり：平屋の住宅で2階を増築するような時に、^{とおしぼしら}通柱を使わず、^{くだぼしら}管柱のみで2階建てとする構造。

2 妻：屋根の両端。

3 近代和風建築：明治時代以降の日本で見られた日本風の意匠を踏まえた建築様式。



鈴木家住宅主屋 敷地南西から見た主屋外観（名古屋市教委提供）



奥座敷に西面床の間（名古屋市教委提供）